

「飛驒黄金」の露地直挿し栽培	
【要約】 「飛驒黄金」の露地栽培では、本圃に直接挿し芽をした後にポリフィルムをべたがけし、遮光資材をトンネルがけすることにより、直挿し栽培が可能である。	
中山間農業研究所・試験研究部	【連絡先】 0577-73-2029

【背景・ねらい】

輪ギク「飛驒黄金」の露地栽培において、省力化を目的とした直挿し栽培を検討し、8月盆需要期出荷に向けた挿し芽時期の違い、直挿し後の被覆ポリフィルムの違いが生育に及ぼす影響を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- 1 水揚げした挿し穂の基部に発根剤（オキシベロン粉剤）を粉衣し、本圃に挿し芽を行った後、十分かん水し、ポリフィルム（有孔透明ポリフィルム（厚さ 0.02mm、500 穴/m²）または無孔透明ポリフィルム（厚さ 0.02mm））でべたがけ、30～50%の遮光資材をトンネルがけすることによって、挿し穂は順調に活着する。
- 2 べたがけポリフィルム内の平均気温、地温はおおむね飛驒黄金の発根適温となる（表 1）。
- 3 8月盆の需要期に出荷するためには4月13日以前に直挿しをする必要がある（表 2）。
- 4 べたがけに用いるポリフィルムは、有孔でも無孔でも生育にほとんど差はない（表 3）。
- 5 通常のセル苗定植と比較すると、露地の直挿し栽培は初期生育が遅く、収穫時の切花長が10cmほど低い（表 3、図 1）。

【成果の活用・留意点】

- 1 立枯病が心配される圃場では、直挿し前に挿し穂を殺菌剤に浸漬するかまたは直挿し後に殺菌剤を灌注する。
- 2 日中のべたがけポリフィルム内は40℃以上になることがあるので、苗が焼けないように直挿し後はしっかりかん水を行い、べたがけ内の湿度を高く維持する。また、遮光資材が風で飛ばされないようにしっかり固定する。
- 3 活着を確認後、べたがけポリフィルムをはずし、さらに1週間ほどしてから遮光資材をはずす。なお、被覆資材は曇りの日または夕方にははずし、温度や湿度の急激な変化で苗が弱らないように注意する。

【具体的データ】

表 1 ポリフィルム被覆期間中のフィルム内環境

期間 (月.日)	処理区	平均気温 (°C)	平均地温 (°C)	平均湿度 (%)	最高気温 (°C)
4.10～4.25	有孔ポリ	15.9	15.0	92.5	42.8
	無孔ポリ	15.8	15.2	94.0	43.1
4.13～4.27	有孔ポリ	16.7	15.8	92.6	42.8
	無孔ポリ	16.6	16.0	94.5	43.1

表 2 直挿し日の違いが収穫日および切り花品質に及ぼす影響

処理区	直挿し日 (月.日)	収穫日 (月.日±日)	切花長 (cm)	節数 (節)	腋芽数 (本)	茎径 (mm)
直挿し区	4.13	8.09 ± 2.7 ^y	68	27	17	5.8
	4.20	8.12 ± 3.3	62	25	17	5.7
	4.27	8.15 ± 2.7	65	28	15	5.7
慣行区	4.22 ^z	8.07 ± 1.8	75	30	16	5.8

^z慣行区はセル苗の定植日

^y標準偏差(n=10)

表 3 被覆ポリフィルムの違いが収穫日および切り花品質に及ぼす影響

処理区	直挿し日 (月.日)	収穫日 (月.日±日)	切花長 (cm)	節数 (節)	腋芽数 (本)	茎径 (mm)	
直挿し区	有孔ポリ	4.10	8.04 ± 3.8 ^y	70	34	17	6.0
	無孔ポリ	4.10	8.06 ± 2.8	72	33	16	5.7
	有孔ポリ	4.13	8.05 ± 4.4	70	31	13	5.7
	無孔ポリ	4.13	8.05 ± 4.3	71	31	15	5.7
慣行区	4.19 ^z	8.03 ± 3.2	80	32	11	5.2	

^z慣行区はセル苗の定植日

^y標準偏差(n=15)

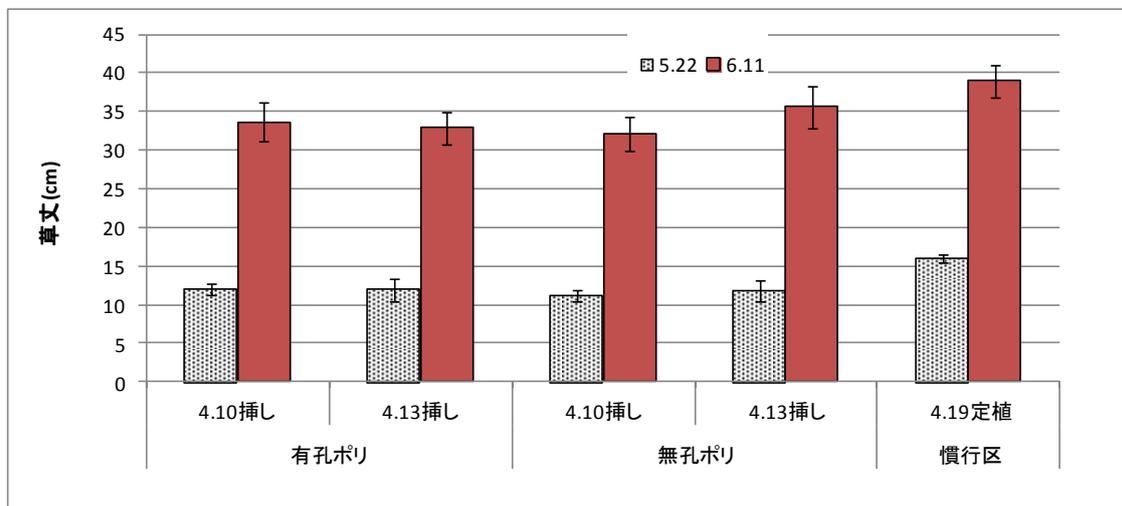


図 1 生育前半 (5月22日、6月11日) における草丈の違い

図中縦棒は標準偏差を示す (n=5)

研究担当者：前田健